

防災行政無線電光表示局を開設

荻窪駅前から災害情報を提供します

19日、杉並区は荻窪駅前北口ロータリーに、防災行政無線電光表示局を設置しました。災害時に、駅前に滞留している方に対し、音声と文字で表示することで、正確な災害情報を提供するとともに、気象警報や光化学スモッグ注意報も提供していきます。

荻窪駅は、JRと東京メトロ丸ノ内線が乗り入れるほか、青梅街道に面するとともに、環状八号線も近くを通る杉並区最大の交通の結束点になっています。東日本大震災が発生した際には、公共交通機関が混乱し、JR線は翌朝まで運行ができませんでした。バスやタクシーに乗って帰宅しようとする人たちが、都心や新宿方面から青梅街道を徒歩で帰宅しようとする人たちが、荻窪駅前の広場に押し寄せました。同様の大地震が、首都圏で発生したならば、交通網はさらに大きな打撃を受けることが明らかです。平成24年4月に東京都防災会議が、東京湾北部地震（震度6強）による被害想定で、杉並区でも帰宅困難者は、9万2千人にのぼると想定されていて、そのうち1万8千人が行き場のない帰宅困難者となると予想されています。

こうした災害の発生時に、まず必要なものは正しい情報です。正しい情報があつてこそ、次の行動が可能になります。その情報発信の大きな役目を果たしてきたのが、昭和56年1月に整備・開局した防災行政無線です。開局当初は、大きな効果があり、まちの安全・安心に役立ってきました。しかし、多くの帰宅困難者が滞留する駅前や広域避難場所等では、音声による情報提供に加え、新たな手段を取り入れることが必要となっています。

荻窪駅前北口ロータリーに開設した電光表示板は、高さ7mの位置に放送塔を囲むように3面から見えるようになっています。表示板は縦32cm横1920cmで、災害情報を文字にして提供します。内容は、防災行政無線からの放送原稿を文字として表示するもので、多数の方に一斉に情報を伝達できる効果的な手段として期待されています。また、防災無線の子局に電子表示板を設置しているのでインターネット回線がパンク（途絶・輻輳）状態となっても情報を提供することが可能となります。このような電光表示板は、広域避難場所の桃井原っぱ公園に、今年4月に設置していて、区内では2カ所目となります。



【報道機関 問い合わせ先】

危機管理室防災課 電話3312-2111 内線3601